

**研究主題 自ら学び、いきいきと学習する児童の育成
～小学校英語教育の充実に向けた「英語教育モデル校」としての取組～**



【研究の具体】

「英語教育モデル校」として、英語指導経験の少ない教員の不安感を軽減するために、学校全体で英語教育に取り組む体制作りをする。電子黒板やデジタル教材を効果的に活用し、児童にとって楽しく、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するためにどう取り組んでいけばよいかを研究している。

○ 外国語教育の目標・授業時数と指導体制

学年	外国語活動・外国語の目標	外国語活動・外国語	指導体制
1年	外国語を通じて、楽しみながらコミュニケーションを図ろうとする素地を養う。	年間17時間(週1回20分)	T1: 学級担任 T2: ALT (JTE)
2年		年間35時間(週1コマ)	
3年	外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。	年間35時間(週1コマ)	T1: 学級担任 T2: JTE
4年		年間35時間(週1コマ)	
5年	外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。	年間70時間(週2コマ)	T1: 外国語専科 (HRT) T2: ALT
6年		年間70時間(週2コマ)	

○ 楽しく授業展開するためのチーム体制づくり

【チームとしての体制】 協力

外国語授業実践リーダー ↔ 学年団

【担任が主体となって楽しく授業展開する方法】

- ① 毎時間の指導案は、実践リーダーが作成(共有ファイルに保存)
- ② 教材、ワークシート、リフレクションシートは学年団で作成(学習の準備)→整備・共有化
- ③ 授業の打ち合わせは、放課後に学年団で一緒にする。(授業の流れ、Classroom Englishによる指示・児童の活動のさせ方等)

○ ICTを活用した楽しい授業づくり

- ①活用のねらい
児童の「やってみよう!」という意欲を引き出しながら、楽しいコミュニケーションにつながるICTの活用をする。
- ②帯活動(全学年)
映像を見ながら、歌やチャンツなどで、リズムに合わせて英語の音や文字に慣れ親しむ。

【アルファベットチャンツ】
- ③ICT(電子黒板、デジタル教材)活用場面例

低学年	歌やチャンツで英語の音声やリズム、基本的な表現に慣れ親しむ。
中学年	アルファベットの歌やチャンツでアルファベットの音と文字に慣れ親しむ。
高学年	・成果物を電子黒板に示し、発表する。 ・デジタルポートフォリオ的に自分の発表する姿を振り返り、良いところや改善点を見つける。

○ 教員研修

- ① 理論研修
- ② 指導力向上研修
・師範授業
・授業研究(年3回)
- ③ 英語力向上研修
・Classroom Englishの練習、ALTとの打合せ
・給食前、英語の歌を児童とともに聞く
- ④ 英語や異文化に触れる環境・教材づくり
- ⑤ ICT研修

【指導技術の研修】


【研究の検証及び改善の手立て】

- 児童の意識調査に見る外国語学習の肯定感の高まり
- ICTの活用により、視覚的にわかりやすい授業の実現
- 教員の不安感の軽減や指導力の向上
- 高学年児童の実態に合わせて授業をコーディネートする必要性
- 教員研修(指導内容や指導方法) ● 小中連携

